

令和4年市町村広報コンクール審査票(映像)

○映像作品の名称 寸劇で学ぼう認知症～自宅に帰れなくなった認知症高齢者をみつけたら～
(玉村町)

評価された点

- ・ ゆっくりと、分かりやすく、ポイントも挙げて説明しているので、理解しやすい。
- ・ 説明をなるべくテロップでも紹介していて分かりやすい。
- ・ 認知症のお年寄りへの対処法について、寸劇を使って具体的に示していて分かりやすい。良い例、悪い例で対比しているのも良い。
- ・ みっちゃんとかずちゃんの掛け合いが良く、気軽に楽しみながら視聴できる内容になっている。伝えたいことも伝わると思う。
- ・ 伝えたいことが明確で、お金をかけなくても工夫すれば面白い啓発ビデオを作れる好例だと思う。
- ・ 寸劇や漫才風のおしゃべりで、楽しく情報を伝えようとしているところに製作者の熱意を感じた。
- ・ 出演している職員の体験を交えるなど認知症の説明が上手。
- ・ 寸劇仕立てで分かりやすい演出だった。自主制作ということで制作費もかかっていないようだが、字幕も効果的に使い、分かりやすく対策法を解説しようという意図が伝わってきた。
- ・ 玉村町にとどまらず、YouTubeを通して多くの人に役立ててもらおうという狙いも良かった。

令和4年市町村広報コンクール審査票(映像)

○映像作品の名称 紅板締め(高崎市)

評価された点

- ・イントロ部分の映像と音楽が非常に合っていて、ゆっくりと引き込まれるような流れだった。
- ・昭和の初めに途絶えた伝統の染の技法の復活に取り組む「たかさき紅の会」の活動を紹介する貴重な記録になる。
- ・実際に型染に取り組む様子を映像化し、その工程を残すことは意義がある。
- ・困難をプラス思考で克服し、楽しみながら伝統の技法の確立と伝承に情熱を注ぐ吉村さんに引き付けられた。
- ・染め物の色柄をはじめとして、紅色が美しかった。
- ・染色の技法を順を追って説明していて臨場感もあり、興味深かった。
- ・「紅板締め」という技法が貴重な事、実際の作業は地味で大変だということが伝わってきた。
- ・オープニングの映像は、赤くきれいに染められたイメージとBGMがマッチしている。
- ・復活した「紅板締め」という技法を用いて布を染め上げていく過程を丁寧に描いていた。限られた記述を頼りに、伝統技法の復活に挑んだということだが、型板を外し染め上がった布が見えた瞬間の歓声からその喜びがよく伝わってきた。また太陽のような柔らかい光を背景に染め上がった布を撮影していて、優しい雰囲気がよくでていた。

令和4年市町村広報コンクール審査票(映像)

○映像作品の名称 「国際平和が2020を盛り上げる」南スーダンと前橋市(前橋市)

評価された点

- ・ホストタウン事業の記念碑的な作品。事業を後世に残すという意味合い的には、全体を網羅したものになっていると思う。
- ・事前長期キャンプ受け入れは全国的にも珍しいケースだった。さらに五輪延期という要素も加わり、受け入れ期間は延びた。全国から注目された取り組みの記録として価値がある。
- ・入国時から選手を追い続け、選手本人だけでなく周囲の人々の様子も盛り込まれていてよかった。
- ・ナレーションによる説明があり、理解しやすかった。
- ・なぜ前橋市と南スーダンとの交流が始まったのかが分かりやすく説明されている。
- ・通訳ボランティアや前橋市民が南スーダンの選手を温かく迎え入れている雰囲気が伝わってきた。BGMも本編の邪魔をせず効果的だった。
- ・JICA提供の写真も使って南スーダンを説明したり、様々な場所に密着し、練習だけでなく、日常の食事や子どもたちとの触れ合いもあり、幅広く取材をしているなという印象を持った。
- ・選手団だけでなく、支援している人たちのインタビューもたくさんあり、飽きずに見ることができた。
- ・全面で手話を入れるなど、東京オリンピック、パラリンクならではの配慮があり、よかった。